

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

## 蕎麦粒山ー奥多摩の寂峰ー

三ツツヅから蕎麦粒山



5 月初旬、奥多摩・蕎麦粒山（1473m）に出かけた。蕎麦の元になるソバの実の菱形で、コバは鋭い稜角をなしている。蕎麦粒山の名は、遠望した山容がソバの実を立てたように、鋭い山稜を見せていることに由来しているとのことである。

奥多摩駅からのバスを 9 時、東日原で下車。下車した客の殆どが鷹ノ巣山に向かうらしく、蕎麦粒山に向かうのは小生 1 人だけ。寂峰の評判どおり、今日一日静かな山歩きが楽しめそうである。中日原と東日原の中間付近の登山口から、どこか農家の庭先にでも入りこむような細い道を標識に従って登山口から、しばらく畑地をたどり、間もなく杉林に入りジグザグ登山が始まる。結構キツイ急登が続く。早々に T シャツ 1 枚になるがそれでも大汗。1 時間程して杉林がブナ、ミズナラの雑木に変わると広い尾根筋になり、傾斜もいくらか緩んだ。しかし長い尾根道である。又か又かと思うような幾つかの峰を越し 11 時 25 分、やっと赤屋根の一杯水避難小屋に到着した。



一杯水避難小屋

小屋前の小綺麗な野外卓を占領して、早めの第 1 回昼食。今日の長丁場を考え、昼食は 2～3 回に分けて取る計画で予め小分けしてきたのが当たった。11 時 45 分出発で、主稜線に沿って水源巡視林道と名付けられた尾根道を

たどる。出発して 5 分程のところにある一杯水は水量豊富でなかなかいい水場である。甘露甘露。それから殆ど高低差のない杉林の尾根道が続き、やがてちょっとした登山が仙元峠。仙元峠を越えた後、ひとしきりスズタケを分けての登山をこなし、12 時 55 分蕎麦粒山頂上に到着した。もうモヤってきてあまり眺望は良くない。20 分程の滞在で 2 回目の昼食。次いで防火帯の伐開された明るい尾



蕎麦粒山頂

根道を日向沢ノ峰に向かう。日向沢ノ峰の北峰は気持ちのいい草原状だが、南峰は狭

い岩稜。更に緩やかな登山下りが続き、尾根歩きの終点・踊平到着は 14 時だった。ここで 3 回目の昼食。ここから大丹波沢への下りにかかる。薄暗い林の中のトラバース気味の下り道が、沢を超え、尾根を越え、無理なく実に上手に切っている。この道を作った昔の人はエライ。14 時半、獅子口小屋跡着。石畳の小屋跡を石組みの石垣が囲み、なかなか風格のある休憩場所である。ここには川苔山からの下山路が合流し、これまでの静かな山とは打って変わって、人声が賑やかである。オバサン達とのオシャベリの一時。ここから沢下り。要所要所にしっかりした木橋や栈道が設けられ、沢の中も赤テープの標示が親切で、良く整備された登山道である。15 時過ぎ、ようやく大丹波林道に這い出した後は、長い長い車道歩き。くたびれ果てての川井駅到着は 17 時半だった。

蕎麦粒山頂からの川苔山

